

令和 7 年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生生活活動支援事業活動報告書

団体等名	フリーペーパー団体信州 Charm	
代表学生	所属大学名・学部・学年	信州大学 繊維学部 3年
	ふりがな 氏名	海沼怜
教職員責任者	所属大学名・職名・ ふりがな 氏名	信州大学 工学部 衣川智弥

活動名	長野県の大学生を信州人にプロジェクト
実施時期	2025年6月～2026年2月
実施場所	長野県内
活動内容	<p>活動の目的 本活動は、長野県内の大学生が卒業後に「長野県に住む理由がない」と県外へ流出してしまう課題を解決することを目的としています。県内の観光地、飲食店、地元企業などのリアルな魅力を掲載した大学生向けフリーペーパー「信州 Charm」を発行し、学生が地域を深く知る機会を創出します。これにより、「長野県に住み続けたい」「長野県の企業に就職したい」という意識変容を促し、若者の県内定着と地域活性化に貢献することを目指しました。</p> <p>活動内容としまして、以下の4つを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長野県魅力発見大会議 ○取材・発行 ○小海線クイズ王決定戦 ○信州ベンチャーコンテスト 2025 <p>(1) フリーペーパー『信州 Charm』の企画・取材・発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 内容：大学生に向けて、県内の観光地や飲食店の情報を発信するフリーペーパー（特別号）を制作・発行した。 ● 特徴：インターネット上の情報ではなく、メンバー自らが現地に足を運び、全身で信州を体感する取材を徹底した。これにより、ネットにはない「生の声」と「リアルな温度感」を誌面に反映させた。 <p>(2) 地域連携イベント「長野県魅力発見大会議」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時：2025年6月14日 ● 内容：地域の方々と学生が共に長野県の魅力を語り合うイベントを開催した。参加者は24名。 ● 成果：語り合いで得られた地域の魅力やリアルな声を、後の冊子制作へと反映させる仕組みを構築した。 <p>(3) 地域貢献ボランティア活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時：2026年2月7日・8日 ● 活動名：JR小海線横断クイズ王決定戦 ● 内容：地域の重要な交通インフラである「JR小海線」の魅力発信と存続応援を目的に、ボランティアスタッフとして運営に参加した。従来の「伝える」活動に加え、地域課題に当事者として向き合い「共に守る」活動へと展開した。 <p>(4) 信州ベンチャーコンテスト 2025</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時：2025年12月7日

	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動名: 信州ベンチャーコンテスト <p>内容: 信州ベンチャーコンテストで、長野県を元気にする事業になる可能性があるとして認められた。今後も、長野県を元気にするためにも信州 Charm を発行していく。</p>
活動の成果と今後の課題	<p>令和7年度の具体的な活動内容</p> <p>今年度は、メディアとしての「情報発信」にとどまらず、当事者として地域課題に向き合い「共に動く」実践的な活動を展開しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フリーペーパー「信州 Charm」の発行と足を使った取材活動 ネットの情報に頼らず、学生自身が現地に足を運び、「生の声」と「リアルな温度感」を直接取材しました。今年度は累計発行部数1万6,000部を突破し、2月には4,500部を発行する特別号の制作も行いました。 ● 地域交流イベント「長野県魅力発見大会議」の主催（2025年6月） 社会人や他大学の学生を交え、長野県の魅力を直接語り合うワークショップ形式のイベントを松本市等で開催しました（計30名以上が参加）。ここで得られた地域のリアルな声を、冊子の企画へと反映させました。 ● 地域課題解決ボランティアへの参画（2026年2月） 地域の重要な足であるJR小海線の存続応援と魅力発信を目的とした「JR小海線横断クイズ王決定戦」にボランティアとして参画し、地域住民と協働しました。 ● 「信州ベンチャーコンテスト2025」への出場（2025年12月） 本団体の活動モデルを発表し、アイデア部門で「ベスト3」を受賞しました。 <p>6. 活動の成果と波及効果</p> <p>今年度の最大の成果は、活動が単なる「学生の思い出づくり」から、社会に貢献する「事業」へとステップアップした点です。ベンチャーコンテスト等で客観的な評価を得たことは、活動継続の大きな自信となりました。また、フリーペーパーの読者アンケートやイベント参加者からのフィードバックを通じて、「知らなかった長野の魅力に気づけた」という声が多く寄せられており、着実に同世代への波及効果を生み出しています。地域企業への広告協賛の提案活動等を通じ、社会人との接点も大きく増加しました。</p> <p>7. 今後の課題と展望 今後の大きな課題は「組織としての成長と持続可能性の確保」です。活動規模が拡大する中で、代表一人に業務や責任が集中する傾向があるため、今後はチーム全体で「信州 Charm」というメディアを育て、後輩へ引き継げる持続可能な運営体制（メンバーの巻き込みやコミュニケーションの改善）を構築していく必要があります。私たちの究極の目標は、この活動を通して「長野県をもっと好きになる人」を一人でも多く増やすことです。今後も大学や地域の垣根を超えた連携を深め、信州を盛り上げていきます。</p>

※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。

※本報告書と併せて、活動内容報告動画及び支出明細書（領収書添付）を提出してください。

※提出された活動報告書等一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。他人が写った写真等を許可なく使用しないなど、著作権や肖像権に配慮してください。

※申請内容から変更があった場合は、経緯を記入してください。